



江東エコリーダーの会は地元の環境・生物多様性に係ります

江東エコリーダー・ニュース 42号

水彩都市江東 安全・安心まちづくりは 人と人の交流から

発行 江東エコリーダーの会 江東区潮見1-29-7

E-mail: mail@koto.eco.to

江東エコリーダーの会ステップアップ研修「北区・子供の水辺、荒川知水館」

日 時： 2015年6月14日

はじめに： 江東エコリーダーの会は、荒川河口新砂干潟を大切に守り、さらに自前のアサリの復活を夢見ている。今回は、「北区・子供の水辺」と「荒川知水館」に研修に出かけた。

「北区・子供の水辺」では、太田桐さんから詳しい解説を頂いた。荒川河川敷の野球場の一部を川の魚や動植物のために、自然の多様性をベースにした水辺ビオトープに改修した。そのために、北区水辺の会が中心になり、荒川下流河川事務所、北区役所、市民、区長、議員などが連携し、協議会を立ち上げて、熱い想いと長い努力を積み上げて創った。

現在、小学校をはじめとする環境学習、管理作業等の毎月の活動が目白押しで、地域の環境学習・生物多様性啓発・自然との触れ合いに大活躍とのことである。江東エコリーダーの会も定例活動に参加し、「しょうぶ田」の周囲に繁茂するヒメガマ刈りを行った。汗を拭き拭き、刈り取ることができた。その後、交流会を行い、北区水辺の会のこれまでの活動や苦労話を聞くことができた。行政と市民の連携の大切さを熟知しながら、今後もNPOや大学や教育委員会との連携を深め、地域の環境保全活動・生物多様性保全に身近な立場から取り組んでいきたいと語る会員の皆様との会話が弾み、交流が広がった。

その後、土手を歩き、旧岩淵水門の島に建立されている「農民魂は、先ず草刈りから」という銘碑に圧倒され、今日の草刈りの大切さを噛みしめることとなった。荒川知水館では、荒川の歴史や自然の展示を見、荒川放水路を造った青山士らの話を聞き、改めてその貴重さを痛感した。



太田桐さんの熱い解説



北区・子供の水辺のレイアウト



厳しい貴重な草刈り体験



北区水辺の会との交流会



参加者の記念写真



荒川知水館での展示解説